

## マチ中フォトスポット

ひがしかわのマチ中も、たくさんのビューポイントがあります。  
マチ中の隠れたフォトスポットを探しにゆっくり散歩してみましょう。



60年間地域の開拓と繁栄に貢献し、2005年に移転開所した北海道電力の江卸発電所(水力発電所)。戦前の人々の完成に至るまでの「苦勞」と「努力」、近隣より産出された石を積み上げて作った水路。それらの面影を残す為に来た石積みで、2005年(開拓111年)11月11日「出会うの門」と命名された。

### 郷土館内



### 旧役場



### 郷土館



### 役場



昔

今

開拓の歴史がある東川町。「明治の家」や「旧役場」(郷土館)など当時の建物など、今も残されている。郷土館内には東川を走っていた当時の電車が展示されている。



### オブジェクトストリート

ひょっこり姿を表すひがしかわの周辺に生息する動物たちのオブジェは、マチ中のベンチ脇のテーブルや柱などにあります。いくつ探せるかな?



数種類の樹木と多くの庭石で日本庭園造りされた開拓記念公園。季節によって色んな表情を見せてくれる。



香川県より入植し、町の田園開発に貢献した名士「尾田松造」が明治44年に建築した住宅。明治時代としては優れた四国風の技術が施されている。町指定有形文化財。



### ふれあいの路

マチ中から開拓百年記念公園に向かう道。道と共にある水路「せせらぎ水路」沿いを、ゆっくり散歩してみよう。



平成6年に東川町開拓100年を記念して出来た公園。公園中央の「フローティング・クーゲル」は水の上で浮いており手で回せる。また、町民制作ブロンズ像も配置されている。



### 赤レンガ倉庫 (Red Brick Warehouse)



旭川市と東川町をむすんでいた旧東川線。農作物と旅客が乗り降りしていた東川駅跡。郷土館には実物車両が展示されている。



### 木彫看板ストリート (Wooden Sign Street)

マチ中に並ぶ木彫看板は東川町商工会青年部が中心となって始まった「木彫看板設置事業」の賜物。現在も続けられている。



町のシンボル「旭岳」「写真の町」をイメージしたマンホールの蓋は2種類。足もとにも注意して散歩してみよう。

### 昔の写真の場所を探してみよう。

故飛野数右衛門さんが撮り続けた写真の数々を中心に、古い写真と今のマチを見比べながら、昭和10~20年へタイムスリップ。



現 JA ひがしかわ前 (S27)

長沢商店前 (S40)

旧東川駅 (S27)

現道の駅前 (S27)

宮崎豆腐店付近 (S28)

### 当時の面影を残す景色や建物がマチ中には沢山!

飛野数右衛門 (ひだのかずうえもん) 1914-2008 (享年 94歳)

東川村(現東川町)に生まれ、14歳(昭和3年)の頃プレゼントされたカメラをきっかけに、東川町の写真を日記帳の代わりに80年間撮り続けた。その功績を讃え2010年、東川町国際写真フェスティバル東川賞に「飛野数右衛門賞」が新設される。それら数々の写真は東川文化ギャラリーにて保存されており、東川町国際写真フェスティバルのホームページ(photo-town.jp)から閲覧することができる。